

旧広島市民球場跡地活用策の基本的な考え方について

広島商工会議所

1. 基本方針

この地域（旧市民球場跡地を含む一帯）は、平和記念公園と連続して平和都市広島の意味を発現する地域であるとともに、活力と多様性をもった都心としての役割と、河岸の自然を大きく包含して都市における人と自然の未来的なあり方を創り出す役割とを担って、広島の新しい中核をかたちづくる重要な地域である。

こうした基本認識に立って、地域全体の計画は以下の3点を基本方針とする。

- 平和記念公園、原爆ドームとの連続性・一体性を持つことと、世界に発信する平和記念公園から世界遺産原爆ドームを望む、いわゆる平和の軸線の景観を保持向上させること。
- 都心と結ぶ「輝く平和」の場としての活力と賑わいのある内容を盛り込むこと。
- 河岸の自然との融合、都心との接続、この地域を含む周辺一帯との魅力的回遊性、広範な圏域からのアクセスなどを確保すること。

2. 全体の計画

○平和の軸線

平和記念公園との連続性を強調し、平和公園からの景観を保持するため、この地域の計画に当たっては、いわゆる平和の軸線の理念を踏まえる。

○賑わいゾーン

この地域の東側を＜賑わいゾーン＞と設定し、都心と公園との緩衝・結節の意味を持たせるとともに、活力ある諸施設や交通施設などを盛り込んだ都市的コンプレックスを創出し、賑わいのあるこの地域全体の中核とする。

○緑地ゾーン

- ・この地域の西側を河岸に開放しく緑地ゾーンとする。
- ・＜緑地ゾーン＞については、河岸との一体性を持たせるため、河岸緑地のレベル（海拔5.3M）までかさ上げし、この下に、駐車場、駐輪場などを設ける。
- ・この＜緑地ゾーン＞は単なる緑地広場でなく、大規模なイベントを開催するためのステージ・音響・照明・界壁・膜構造屋根などの施設が可能な装備を備える。

○周辺との一体化と回遊性の確保

- ・この地域を平和記念公園と一体化するために、原爆ドーム前から広い幅員の横断歩道を設置し、地域内の魅力的な移動手段を導入する。
- ・＜賑わいゾーン＞のコンプレックスに設けるコンコースや地域東側の道路などにより、自由広場・グリーンアリーナ・中央図書館・ひろしま美術館などとの快適な回遊性を創り出す。
- ・＜賑わいゾーン＞は地域東側のそごう・パセーラ・クレドなどとデッキやコンコースなどで連結して都心との一体性を確保する。
- ・これら広範な地域全体の回遊性や広域からのアクセスの確保などのため、周辺道路のあり方について再検討し、特に、歩行者の回遊性や景観、排気ガスや騒音などの地域環境の観点からバスセンターのあり方について総合的に検討する。

3. 本計画の実現に向けて

- ・広島市の強力なリーダーシップのもとに、中長期的なまちづくりの視点に立ち、関係者の総力が結集され、広島の新しい中核をかたちづくるこの地域が常時、賑わいの拠点として運営されるよう期待する。その中で本所ビルについては、広島市から移転の要請があれば移転の是非も含めて検討する。

以上